

第 3 部

訓練適応性検査「ミシン縫製編」 指導員手引書

目 次

I . 訓練適応性検査実施上の注意.....	3
II . 検査実施時の指導員の手順.....	4
III . 検 査 の 実 際.....	5
1. 予 備 的 説 明.....	5
2. 作業方法の指導.....	6
ミシン操作の説明.....	6
糸を切る方法.....	7
第 1 縫目の指導.....	8
第 2 縫目の指導.....	9
第 3 縫目の指導.....	9
最 終 指 導.....	10
IV . 検 査 施 行.....	10
V . 評価項目と評価方法.....	11

1. 訓練適応性検査実施上の注意

この検査は、特別に訓練を受けた指導員によって実施することが肝要である。

1. 検査に入る前に、検査担当者一人一人が、検査の趣旨、検査方法、評価方法について、十分に理解するとともに、検査担当者ごとの役割分担をきめる。

主な役割は、次のとおりである。

- ① 準備（ミシン、材料、計測装置の準備）
- ② 被験者に対する説明
- ③ 実演
- ④ 評価

2. 検査実施時の注意事項

- ① 被験者ができるだけリラックスした状態で検査がうけられるように、十分配慮する。
- ② 被験者に対する説明は、検査担当者あるいは、被験者が変わっても、できるだけ同じ内容で、同じ時間をかけて実施する。但し、障害の部位、程度によって、必要な配慮を行うことがある。
- ③ 被験者に対する説明と実演を含めて、一人あたりにかける時間は、25分を標準とする。
- ④ 被験者は、検査担当者の説明が終わったあとで、自由に質問することができ、検査担当者は質問に対してできるだけ完全に理解させるように説明する。
- ⑤ 検査に入った段階では、被験者は誰の援助も受けずに、独力で課題を遂行しなければならない。

検査実施中は、検査担当者は、口頭でも、実地でも、全く援助してはいけない。

- ⑥ 評価は、検査課題の遂行中、および遂行後に、評価項目ごとに、評価基準にしたがって、エラー、態度および出来栄えを記入し、次いで、5段階尺度で最終的に訓練適応性を評価する。

Ⅱ．検査実施時の指導員の手順

① 予備的な説明

- ① 課題の完成品をみせる。
- ② 課題の内容について説明する。
- ③ ミシンの機能について説明する。

② 作業方法の指導

- ① ミシン操作について説明する。
- ② 作業方法について説明する。
- ③ 実演してみせる。
理解されていない場合は、もう1度やってみせる。
- ④ 被験者に1度だけ練習のために、やらせてみる。

③ 質 問

自由に質問させ、回答する。

④ 検査の実施

⑤ 評 価

Ⅲ．検 査 の 実 際

1. 予備的説明

① 検査に入る前に、被験者一人ひとりに次のものを渡す。

ア．課題見本一つ（袋の完成品）

イ．課題をつくるための材料（30 cm 四方、ブロード）3 組

ウ．練習用の材料 1 組

② 課題の内容説明

受講希望者がミシンの椅子に腰かけている間に次の指示を行う。

被験者に対して

ア．これから課題の作り方を説明します。（課題見本を見せながら）

このような課題です。

この課題を作るためには、手と足の正しい操作と、課題作成の手順を理解することが必要です。

あなたがわかるまで説明しますので何んでも質問して下さい。

イ．落ち着いてやって下さい。

③ ミシンの機能についての説明

ア．坐る位置について説明する。（ミシンから 10 cm～15 cm 離れる）

イ．モーターのスイッチボタンの操作について説明する。

ウ．起動ペダル（踏み板）と押さえ上げペダルについて説明する。

2. 作業方法の指導

ミシン操作の説明

（被験者が気楽に腰かけているかどうか確認する。）

（どのような場合でも被験者が理解していないように思われる場合には、検査担当者は何度でもわかるように説明する。）

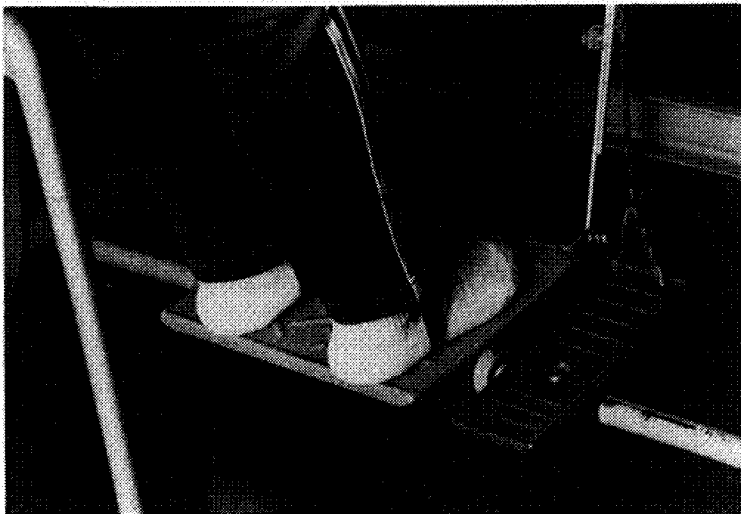
まず第 1 に、ミシンの操作について説明します。

テーブルの下に 2 つのペダルがあります。左が大きいペダル（起動ペダル）、右が小さいペダル（押さえ上げペダル）です。

右足で小さいペダルを踏みます。ミシンがどうなっているか、よく見て下さい。

（被験者に教えないで、自分でみつけさせる。）

上下している部分が、ミシンの「押さえ金」と呼ばれるところです。（同時にメスとメスの縁の説明をします。）



ミシンをかけている間の足のおき方



ミシンの右下にスイッチがあります。そのスイッチのONを押すとモーターに電気が入ります。左側の大きいペダルを両足で踏みなさい。

ミシンがどのように動くか、よく見て下さい。

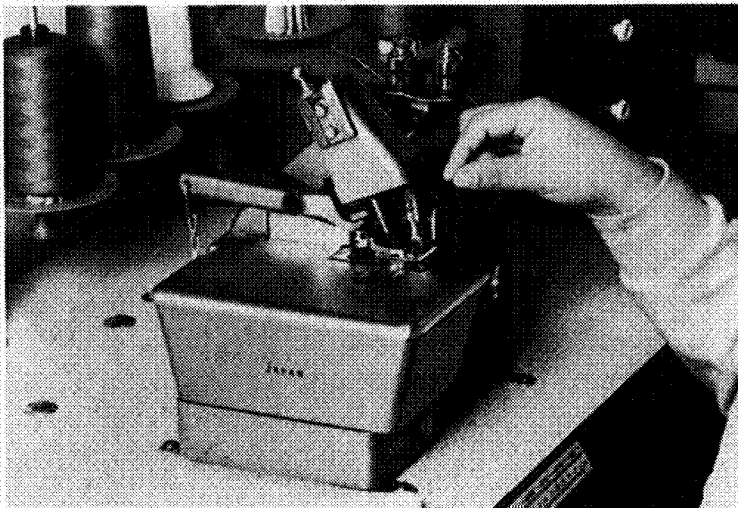
ミシンをかけている間は、あなたは両足で左側

のペダルを踏んでは絶対にいけません。（繰り返して2度説明する）

ミシンの押さえ金を持ち上げるために右足で小さい方のペダルを踏んで下さい。このとき、左足は大きいペダルに乗せたままにしておきなさい。両方のペダルを同時に常に踏んでいることになります。（上掲の写真参照）

糸を切る方法

右手で糸をつまんで下さい。縫い糸は鎖状になっています。ミシンの押さえ金の下に糸を入れて、その糸を右に引っ張りなさい。



次に両足で大きいペダルを踏んで下さい。

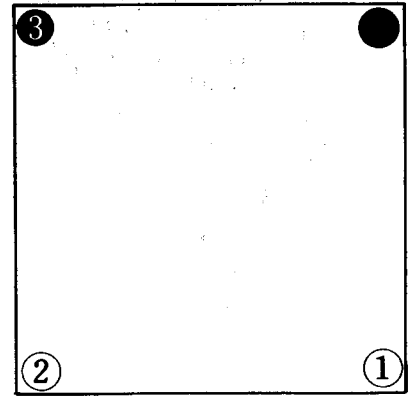
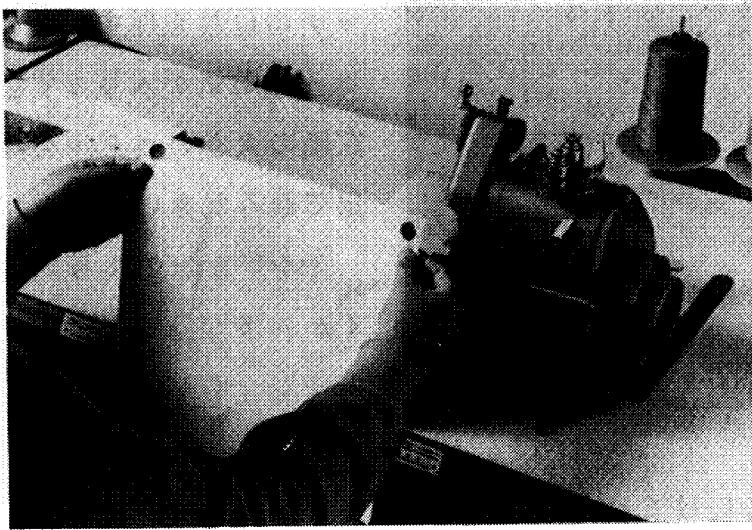
どうなりましたか。（被験者に答えさせる。）

そうです。これがミシンで糸を切る方法です。

もう一度やってみなさい。

第1縫目の指導

両手で2枚の布を持ち、●印のついている角を揃えます。

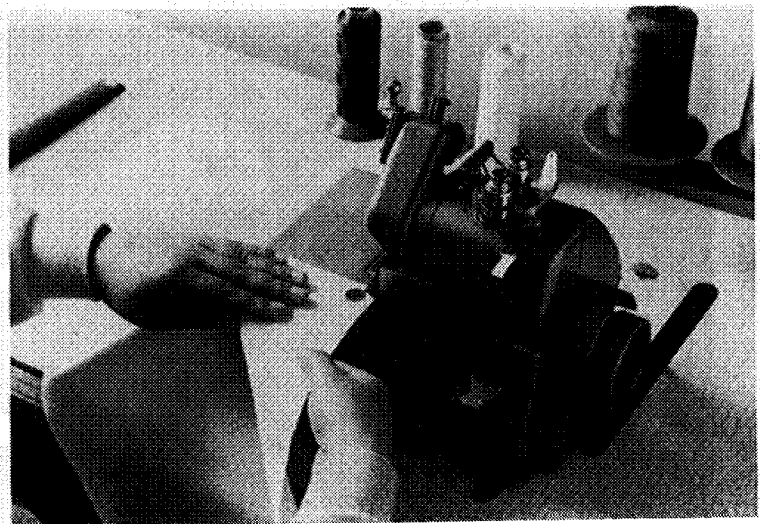


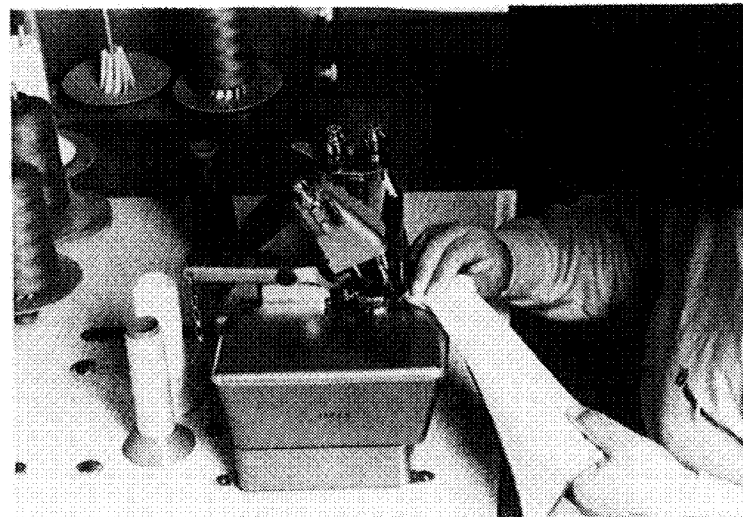
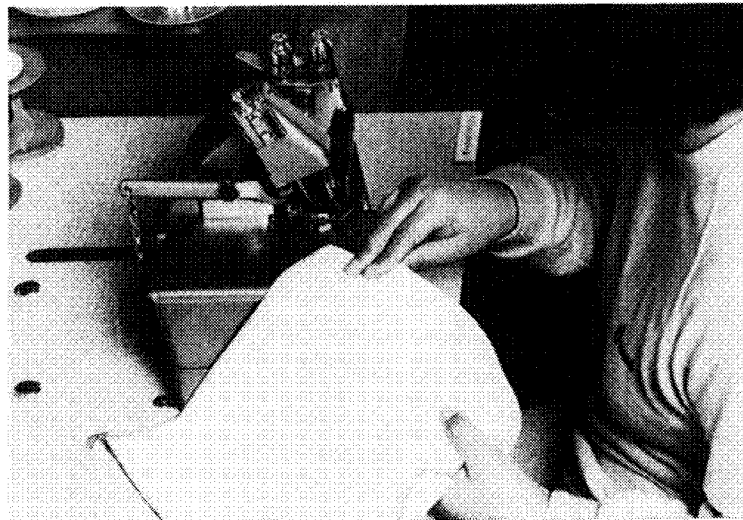
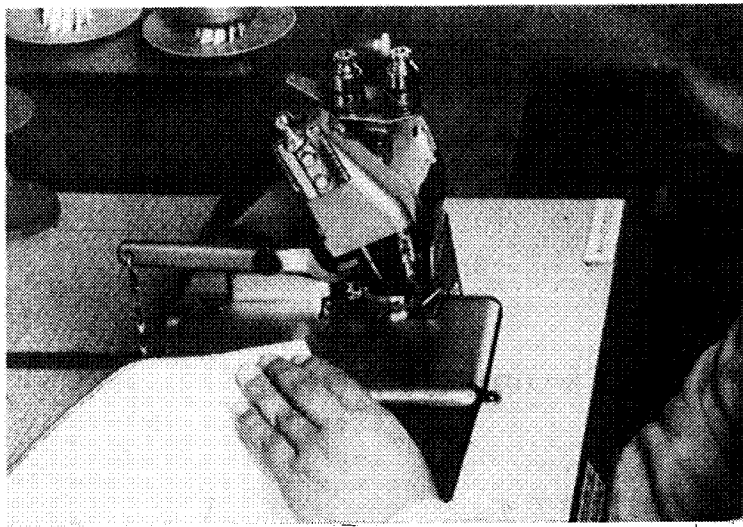
(メスとメスの縁を確認します。) 小さいペダルを踏んで押さえ金を持ち上げます。布を押さえ金の下に入れます。(布が押さえられているか確認する。) 布の端とメスの縁が一直線に並ぶように布の位置を合わせて下さい。

両手で布を持ち2枚の布の端がきちんと合っているのを確認しなさい。右手は①の角を親指を上、他の指を下にして持ちます。左手はかるく布の上におき、布送りを助ける要領で動かして下さい。

これで縫い始める用意ができました。

両足を大きなペダルに乗せてゆっくり縫ってごらんください。糸を持てるように布端からさらに5cmぐらい空縫いしなさい。これで布をまわすことができます。





第2縫目の指導

布を回します。布を押さえ金の下に入れて、布の端とメスの縁が一直線に並ぶように布の位置をきめなさい。右手で②の角を持ち、親指を上、他の指を下におき、2枚の布の角が合っているのを確認しなさい。左手を布の上にかるくおき、布送りを助ける要領で動かして下さい。両足で大きなペダルを踏みゆっくり縫いましょう。布を回せるように5cmぐらい空縫いして下さい。

第3縫目の指導

布を回して押さえ金の下に入れ、布の端とメスの縁が一直線に並ぶようにして下さい。右手で③の角を持ち、親指を上、他の指を下におき、2枚の布の角が合っているのを確認して下さい。左手は押さえ金の左側にかるくおいて、布送りを助ける要領で動かして下さい。両足で大きなペダルを踏み、ゆっくり縫いましょう。5cmぐらい空縫いして糸を切って下さい。

最終指導

（この段階で、被験者からどんな質問でもよいから受けることとし、自信を持って検査にのぞむように仕向けることが大切です。）

Ⅳ．検査施行

これまでに説明したのと同じ方法で3つの課題を作らせる。

（この段階での指導員の援助は厳禁です。
行動観察を中心としたエラーチェックおよび態度評価に
専念して下さい。）

V. 評価項目と評価方法

① 評価は、表1の「項目別評価表」に示す16項目について、表2の「項目別評価基準表」の評価基準に基づいて行う。

② 評価は、次の4段階に分けて行う。

㊦、検査課題遂行中に行う客観的評価

㊧、検査課題遂行中に行う主観的評価

㊨、課題遂行後、製作課題の出来栄えについて行う客観的評価

㊩、全体を通しての総合評価

ア、課題遂行中に行う客観的評価

課題遂行中、エラーが発生するたびにそれを正確、かつ迅速に記入してゆく必要がある。そのため、図1の「エラー出来栄え記入図表」を利用する。

評価項目は、次の10項目である。

1	布の正しい位置ぎめができる
2	右手の指操作ができる
3	左手の指操作ができる
4	右足の操作ができる
5	左足の操作ができる
6	左右の足操作ができる
7	エラーに気付いたか
8	速度の調整ができる
9	角の縫目の糸始末ができる
10	縫い終りの糸始末ができる

イ、課題遂行中に行う主観的評価

理解度、興味、熱意の程度について質問のやりとりと作業の実施状況から指導員が主観的に判断して評価する。

評価項目は、次の4項目である。

13	演示、説明を理解できる
14	疑問点について質問することができる
15	考えながら作業することができる
16	意欲的態度をもっている

ウ、出来栄えについて行う客観的評価

製作課題の出来栄えについて客観的に評価するものである。このため図2の「直線性判定定規」を用い、その判定結果を前掲「エラー出来栄え記入図表」に記入する。

評価項目は、次の2点である。

11	縫い目が直線になっている
12	縫い直しをしないで完成できる

エ、総合評価

上記ア～ウを総合して、次の「総合評価基準」に基づき5段階評価を行う。評価の結果は、前掲「項目別評価表」の最下欄に記入する。評価の客観性を確保するため、評価は複数以上の指導員の協議によることが望ましい。

総合評価基準

- 「A」 所定の訓練課程を期間内に十分習得することができ、訓練修了によって優れた技能の発揮が期待できる。
- 「B」 所定の訓練課程を期間内に一応習得することができ、訓練修了によって水準なみの技能の発揮が期待できる。
- 「C」 所定の訓練課程を期間内に完全に習得することは困難視されるが、あまり複雑でない仕事であれば、一応こなすことが期待できる。
- 「D」 所定の訓練課程を習得することは困難視される。簡単な技能に習熟させるにも相当の努力が必要である。
- 「E」 当該職種については訓練不可能である。他の職種で適応性を再判定する必要がある。

表 1 項 目 別 評 価 表

番号		氏名		歳	生月	年日		実施日				
素材名				評価者			訓練校名					
番号	評価項目	課題数		第 1 袋			第 2 袋			第 3 袋		
		評価箇所		第1縫	第2縫	第3縫	第1縫	第2縫	第3縫	第1縫	第2縫	第3縫
1	布の正しい位置ぎめができる											
2	右手の指操作ができる											
3	左手の指操作ができる											
4	右足の操作ができる											
5	左足の操作ができる											
6	左右の足操作ができる											
7	エラーに気付いたか											
8	速度の調整ができる											
9	角の縫目の糸始末ができる											
10	縫い終りの糸始末ができる											
11	縫い目が直線になっている											
12	縫い直しをしないで完成できる											
13	演示、説明を理解できる											
14	疑問点について質問することができる											
15	考えながら作業することができる											
16	意欲的態度をもっている											

訓練適応性総合評価	E	D	C	B	A
-----------	---	---	---	---	---

※あてはまる記号を○でかこんでください。

表2 項目別評価基準表

番号	評価項目	評価点			e	d	c	b	a
		評価内容	単位	測定用具	劣る	やや劣る	普通	良い	大へん良い
1	布の正しい位置きめができる	布ずれ	mm	エラー・出来栄記入 図表	4以上	3	2	1	0
2	右手の指操作ができる	誤り	回	"	4以上	3	2	1	0
3	左手の指操作ができる	誤り	回	"	4以上	3	2	1	0
4	右足の操作ができる	誤り	回	"	4以上	3	2	1	0
5	左足の操作ができる	誤り	回	"	4以上	3	2	1	0
6	左右の足操作ができる	誤り	回	"	4以上	3	2	1	0
7	エラーに気付いたか	誤り	回	"	19 以上	13 18	7 12	1 6	0
8	速度の調整ができる	速さ	秒	ストップ・ウオッチ	8秒 以下	9秒 11秒	12秒 14秒	15秒 17秒	18秒 25秒
9	角の縫い目の糸始末ができる	ループの 大きさ	cm	直線性 判定定規	1 以下	1	1.5	2	2.5
10	縫い終りの糸始末ができる	残り糸の 長さ	cm	物指し	1	2	3	4	5
11	縫い目が直線になっている	判定線のズレ	mm	直線性 判定定規	6 以上	6 以下	4 以下	2 以下	0
12	縫い直しをしないで完成できる	たるみによる カット	mm	"	6 以上	6 以下	4 以下	2 以下	0
13	演示、説明を理解できる	指導員の判断による							
14	疑問点について質問することができる	"							
15	考えながら作業することができる	"							
16	意欲的態度をもっている	"							

図1 エラー・出来栄記入図表

所要時間			
分 秒			

※ ×印は未使用指

aとの差

(0) a
(2 以下) b
(4 以下) c
(6 以下) d
(6 以上) e

速度

右足

右手

位置

エラーの数

第1縫い

評価回数

課題実施回数

評価

第2縫い

左手

左足

右足

ループ

位置

右手

右足

速度

エラーの数

作業態度

13	14	15	16

番号	氏名	
----	----	--

図 2 直線性判定定規

